

# アメリカ大統領選挙を大きく歪める 「新型コロナウイルス」

上智大学教授 総合グローバル学部学部長 / 21世紀政策研究所研究副主幹

前嶋 和弘  
まえしま かずひろ



アメリカを震撼させている新型コロナウイルスが大統領選挙の展開を大きく変えつつある。何がいつもの選挙年と異なるのか。4点に分けて考えたい。

## 「コロナ禍で揺らぐ選挙のあり方」

まず、第1に各種政治イベントは選挙には欠かせないが、そのイベントが感染源となりかねないため、選挙戦そのものが例年に比べて非常に小規模で目立たないものになってしまっ

まう。実際、すでに民主党の予備選ではその傾向が目立っている。サンダース氏が4月8日に

撤退したのも選挙戦をしっかりと行えないという理由が大きかった。予備選の結果に応じて配分される代議員数は撤退の段階でまだ4割が決まっておらず、両者の獲得代議員数の差が3割であることを考えると、大逆転のチャンスがなかったわけではない。ただし、サンダース氏がバイデン氏を破るためには選挙集会を繰り返し、支持者を広げていかなければならないが、未曾有の感染拡大のなかでは、十分な選挙運動は不可能だった。このタイミングでの撤退は仕方なかったのだろう。

第2に、コロナ禍では、選挙のあり方についての疑念が大きくなってしまいかもしれな

い。アメリカの選挙の風物詩でもある広範な選挙ボランティアの活動は、今年は大分下火になる。民主党側も共和党側も夏の党大会そのものを開催できない前代未聞の事態も危惧されている。民主党側は指名候補を最終的に決める全国党大会を7月半ばから8月半ばに延期し、オンライン開催という代替策も検討している。共和党側は現段階では予定通りは8月下旬に開催する予定だが、どうなるかはまだかなり不透明だ。

また、11月3日の本選挙を郵送に切り替える州もすでに増えている。こちらについても本人確認の問題などもあり、不正の温床にな

りかねないという指摘が一部である。特に共和党側からの反発が強く、郵送投票そのものが投票の壁を低くし、通常の投票よりも貧困者や人種マイノリティの投票率が上がり、民主党に有利になるとみているのだろう。現在、インターネットを使ったオンライン投票は、外国に居住するアメリカ国民だけにほぼ限定されている。これを国内の投票にも適用した場合、不正アクセス対策というコンピュータの方の「ウイルス」対策も急務になってしまふ。ロシアなどからの介入も再び現実的なものになりつつある。

いずれにしろ、実施方法が揺れば、選挙そのものの正統性も揺らいでしまふ。

### コロナ対応のみが 大統領選挙の争点に

第3に、新型コロナウイルス感染対応だけが主な争点となって、このシングルイッシュユーがアメリカ大統領選挙の行方を大きく左右するかもしれない。トランプ大統領にとって最大のPRポイントだった好景気はすでに過去の話だ。1929年の大恐慌を超えるような大失業時代を迎えつつある。的確な対応を進めることができず、感染者が増え続ける事

態が一定期間続けば、トランプ大統領の信任が問われる。バイデン氏にとっては大きなチャンスとなる。一方で今後、感染が急激に減り、さらには景気も戻っていった場合、「新型コロナウイルスを撃退した大統領」として、トランプ氏に有利になることは必至だ。

コロナ禍のなかでは、感染者や死者の数は独り歩きする。しかもその数字は州政府の対応に呼応する部分も大きい。そもそも感染対策・経済支援の各種立法化は、大統領の提案やリーダーシップも影響したところはあるが、基本的には議会側が立法したものだ。

大統領の政策運営能力には内政や外交などさまざまなものがあり、総合的に評価されるべきだ。しかし、コロナ感染の状況ばかりが争点になり、他の大統領の資質に対する評価が抜け落ちてしまふことが懸念される。

### 社会的パニック状態の「政治化」

第4が、コロナ禍という戦争にも例えられないような非常に悲惨な状況のなかで、社会的パニック状態が「政治化」しつつある。今後の選挙戦で交わされる言葉は非常に感情的なものになるのは必至だ。

新型コロナウイルス対策については、スー

パーチューズデー直前から「トランプ政権の対応が悪い」など民主党候補にとって格好のトランプ政権たたきの材料になっていた。民主党の事実上の指名候補に決まったバイデン氏は「トランプではだめだ」「新しいリーダーシップが必要」というイメージを無理やりにもつくり上げていかないといけない。そのため、トランプ大統領の姿勢をこき下ろす言葉はすでにかなり辛らつだ。これに対してトランプ大統領も、いつも以上にバイデン氏や、自分を敵視するリベラルメディアを口汚くののしっていくであろう。

選挙戦の言葉の劣化は、政治の劣化にほかならない。その劣化した政治のなかで、トランプ大統領が再選されるにしろ、バイデン氏が大統領になるにしろ、次の大統領が就任直後に直面するのは、さらに対立や分断が深まったアメリカという国家の運営である。運営の難しさは明らかだ。

「新型コロナウイルス」という予期しなかったワイルドカードが今後のアメリカ大統領選挙の展開を大きく歪めていく。その度合いがどこまでひどくなるのか。不安がよぎるこの展開を世界はこれから注視しないといけない。